

# 日向市スポーツ施設整備基本構想概要版

## 第1章 基本構想の策定に当たって

### ◆基本構想策定の趣旨

- ・本市のスポーツ施設は、老朽化が進み、適正な維持管理が求められている。
- ・競技団体や市民から施設充実に対する要望が出されている。
- ・スポーツ施設の在り方や今後の施設の整備について、施設の役割や求められている機能等を検討する。

### ◆スポーツ施設の定義と対象施設

- ・市民のスポーツ振興、健康増進、交流スペースを目的とした有料の公共スポーツ施設を対象とし、学校の体育施設や観光施設、民間の商業用体育施設等は対象としない。

## 第2章 現状と課題

### ◆スポーツに関する現状

- ・本県のスポーツ行動者率は、ほとんどの種目で全国平均を下回っている。
- ・市民が利用するスポーツ施設が点在しており、中でもお倉ヶ浜総合公園や大王谷運動公園は、本市におけるスポーツ活動の拠点となっている。
- ・利用率、利用者数、使用料収入が総じて高い施設は、体育センター、大王谷運動公園陸上競技場、お倉ヶ浜総合公園テニスコート及び屋内運動場となっている。

### ◆市民のスポーツ施設に対するニーズ

- ・2,000人を対象とした市民アンケート調査結果。
- ・回収率は、646票の32.3%であるが、統計学によると646票の標本数で得られるアンケート結果の信頼度は96.1%とされている。
- ・回答者の年齢は、60歳以上が約半数を占めている（このことは、他のアンケート調査でも同様）。
- ・お倉ヶ浜総合公園屋内運動場、大王谷運動公園陸上競技場、体育センターの利用頻度が高く、満足度、重要度・必要度も総じて高くなっていることから、これらの施設を優先的に整備・改修する必要がある。
- ・体育センターは、不満足割合が最も高くなっていることから、特に施設整備・改修のニーズが高い。
- ・厳しい財政状況を考慮すると、施設整備・改修の優先度を明確にする必要がある。
- ・お倉ヶ浜総合公園はスポーツキャンプや各種大会の実施、大王谷運動公園は市民が気軽に利用できるスポーツ施設の充実を図るといふ、役割分担による施設整備が考えられる。
- ・施設の整備内容としては、競技や観戦を快適に行えること、充実した設備を利用できること、災害時の防災拠点となることが求められている。
- ・新たに必要なスポーツ施設としては、「総合体育館・武道館」が求められている。

### ◆スポーツ施設に関する本市の課題

- ・少子化の進展に伴うスポーツ少年団活動の低調化や、高齢社会の到来に伴う健康増進や健康長寿志向によるスポーツ活動の拡大によるスポーツ環境の変革が予想されている。
- ・災害時の避難所となる施設の充実や災害対応などの防災拠点としての役割が求められている。
- ・主なスポーツ施設は、建設後40年近くが経過しており、老朽化が進行している。特に、体育センターや武道館は、利用頻度が高いにもかかわらず老朽化が著しい。
- ・毎年、施設の補修など維持管理に多額の費用が必要となっている。
- ・野球場の老朽化、整備等の遅れなどにより、近年、プロ野球1軍のキャンプは実施されていない。

- ・スポーツキャンプは、地域経済の活性化に大きな効果があり、更なる取り組みが求められている。
- ・施設のバリアフリー化や耐震化といった安全・安心につながる利用しやすい施設環境が整っていない。また、ユニバーサルデザインへの対応も求められている。
- ・日向市公共施設等総合管理計画に基づいた施設の適正な維持管理や施設の再構築・再編成など計画的な維持管理が求められている。
- ・お倉ヶ浜総合公園、美々津運動広場が、南海トラフ巨大地震による津波浸水想定区域に位置している。

### 第3章 基本構想

#### ◆スポーツ振興や施設整備等に関する上位計画

##### (1) スポーツ振興等に関する上位計画

- ・第2次日向市総合計画では、重点戦略における主な事業として「東京オリンピック・パラリンピック競技大会事前キャンプ誘致・交流の推進」「生涯スポーツの推進」「体育館の整備推進」を掲げているほか、基本目標別の施策として「競技スポーツの推進」「体育施設の整備と活用」「スポーツを生かした観光交流の拡大」を掲げている。
- ・日向市総合戦略においては、観光・スポーツ・文化などの本市にある地域資源を磨き上げ、広域で連携し、国内外からの交流人口を増加させ、地域活性化を図ることとしている。
- ・日向市観光振興計画では、本市の年間を通して温暖で快晴日数の多い気象状況の優位性を生かし、プロ野球やサッカーJリーグ、ラグビー等のスポーツキャンプ・合宿のスポーツイベントの誘致を推進することとしている。

##### (2) スポーツ施設整備等に関する上位計画

- ・日向市行財政改革大綱では、公共施設の老朽化に伴う多額の更新費用に対応するため、社会経済情勢や市民ニーズの変化を見極めながら施設の更新、統合、廃止の最適化に取り組むとともに、適正な維持管理、長寿命化、PPP/PFI手法による財政負担の軽減と平準化を図ることとしている。
- ・日向市公共施設等総合管理計画では、「安全・安心の確保」「総量の最適化」「ライフサイクルコストの縮減」を公共施設マネジメント三原則とするとともに、総量の最適化においては普通会計における建物系施設（総延床面積）の30%削減を数値目標としている。

#### ◆スポーツ施設の役割及び位置付け

##### (1) スポーツ施設の役割

- ・競技力の向上はもとより、市民がスポーツ活動に親しみ、体を鍛え、健康増進に努めるなど、市民のスポーツ振興を図るもの。
- ・スポーツを通じた市民の健康増進を図るもの。
- ・スポーツキャンプや合宿等による活動を通して、地域の活性化を図るもの。
- ・災害時の重要な防災拠点としての役割を果たすもの。

##### (2) スポーツ施設の位置付け

- ・スポーツ施設に対して、一律に投資を行うのではなく、スポーツ施設の位置付けを明確にし、次のとおり優先的に投資する施設を明確化する。
- ・お倉ヶ浜総合公園は、「スポーツ活動の拠点」として位置付けられ、大王谷運動公園の野球場を集約して機能強化を図ることで、施設のポテンシャルを最大化していくことが必要である。
- ・大王谷運動公園も「スポーツ活動の拠点」として位置付けられるとともに、津波浸水想定区域外という立地条件から、総合体育館のような大規模な屋内施設を災害時の防災拠点として機能させることに

よる防災機能の最大化を図ることが求められる。

- ・その他のスポーツ施設は、地域集落単位での健康増進やスポーツ振興の役割を担うものであるが、体育センターについては隣接する武道館とともに建て替えを行う必要がある。

#### ◆スポーツ施設の将来像

##### (1) 市民スポーツ施設全般の整備に関する将来像

～～ 市民誰もがスポーツを体感できる施設づくり ～～

##### (2) 拠点施設となる各施設の将来像

###### ①お倉ヶ浜総合公園

～ 観て楽しめるハイレベルな競技スポーツの拠点 ～

###### ②大王谷運動公園

～ スポーツ力向上を牽引する市民スポーツの拠点 ～

###### ③その他のスポーツ施設

～ 地域住民の健康増進・社会体育の拠点 ～

## 第4章 基本構想を推進するための方針

#### ◆スポーツ施設整備に関する基本方針

- ・「市民ニーズが高く、市民満足度に寄与する施設」「スポーツキャンプや大規模大会の誘致など、市外からの流入により地域経済の発展に寄与する施設」を優先的に整備していく。
- ・誰もが安全・安心に使いやすい施設とすることを基本とするとともに、耐震化等の安全・安心の確保については積極的に取り組んでいく。
- ・施設ごとの利用者の属性や要望等を的確に把握し、利用者のニーズに応じた施設整備や改修を行う。
- ・既存施設の有効的な活用を図っていくことを基本とするが、施設の建て替えや新設の場合には、市民との協働や地域との連携を十分図った上で、PPP/PFI手法等の民間活力の導入なども検討し、魅力的で経済的な施設整備と安定的な施設運営・管理を行っていく。

#### ◆拠点施設に関する施設整備の方針

##### (1) お倉ヶ浜総合公園

- ・ハイレベルなスポーツ競技、スポーツ観戦に利用できるよう、野球場の集積整備や多目的広場の改修等の施設整備を行う必要がある。
- ・全国高校総体や2巡目宮崎国体等の大規模大会の誘致・開催に向けた施設整備を行う必要がある。

##### (2) 大王谷運動公園

- ・野球場については、お倉ヶ浜総合公園に集積整備を図る必要がある。
- ・陸上競技場については、市民スポーツの拠点施設として適正な維持管理とともに、夜間利用ができるよう施設整備や樹木管理を行う必要がある。
- ・現体育センターの課題に対応するとともに、災害時の防災拠点となる体育館の施設整備を行う必要がある。

##### (3) その他のスポーツ施設

- ・老朽化が進む体育センター、武道館を廃止し、総合体育館として整備する必要がある。
- ・各地域の体育館については、耐震補強等を継続的に実施する必要がある。

## ◆総合体育館の整備

### (1) 整備場所

- ・現敷地、お倉ヶ浜総合公園、大王谷運動公園について拠点性、交通性、防災性、経済性の視点から検討した結果、大王谷運動公園が最も適しているといえる。
- ・その他の場所としては、財光寺地区を整備場所とする案も出された。

### (2) 施設規模

- ・2巡目宮崎国体の競技会場も想定されることから、アリーナ面積を2,400 m<sup>2</sup>（バレーボールコート4面、バスケットボールコート3面）とし、武道館も併設することを想定する。

### (3) 施設概要

- ・整備費をできる限り抑えるとともに、メンテナンスしやすく維持管理費の低減につながる施設整備とすることが必要である。
- ・避難所、救護所、備蓄倉庫、自家発電設備等を備えた災害時の防災拠点として機能する施設とすることが必要である。

### (4) 建設費

- ・近年整備されたメインアリーナ面積が類似した施設を参考にした場合、30～40億円と想定する。

### (5) 財源

- ・国の交付金や補助金等の活用を検討し、残りの事業費については建設基金の積み立てや地方債等の活用を検討する。
- ・財政運営の効率化に向けて、PPP/PFI手法等の民間活力の導入についても積極的に検討する。

## ◆野球場の整備

### (1) 整備場所

- ・キャンプ、大会誘致による地域活性化を図るため、「観て楽しめるハイレベルな競技スポーツの拠点」として位置付けた「お倉ヶ浜総合公園」に集積整備する。

### (2) 施設規模

- ・プロ野球の公式試合が開催できる規模とする。

### (3) 施設概要

- ・収容人数を5千人～1万人規模と想定する。
- ・フィールドには、プロ野球公式戦で使用される人工芝または天然芝を敷設するとともに、防球ネットや室内練習場、ブルペンルーム、スコアボード、バックスクリーンを設置する。

### (4) 建設費

- ・既存の類似施設と収容人数を参考にした場合、15～20億円と想定する。

### (5) 財源

- ・総合体育館と同様に、国の交付金や補助金等を活用する。

## ◆施設整備スケジュール

- ・財源の確保が厳しい状況や2巡目宮崎国体の開催を踏まえ、短期（平成30～32年）、中期（平成33～37年）、長期（平成38年以降）に分けて整備する。
- ・お倉ヶ浜総合公園野球場の集積整備は中期以降（平成33年以降）、大王谷運動公園の総合体育館及び陸上競技場の整備は中期まで（平成37年まで）に実施すると想定する。